

令和3年度

学力・学習状況充実プラン

1	小・中学校の授業改善に向けて	1
2	授業改善に向けて	
(1)	小学校の正答数分布の傾向	2
(2)	中学校の正答数分布の傾向	3
(3)	質問紙調査の傾向	4
(4)	授業改善の方向性	7
3	各教科の課題解決に向けて	
(1)	小学校国語	8
(2)	小学校算数	10
(3)	中学校国語	12
(4)	中学校数学	14
4	授業アドバイスシート	
(1)	小学校国語	16
(2)	小学校算数	25
(3)	中学校国語	29
(4)	中学校数学	33



愛知県教育委員会義務教育課
愛知県総合教育センター

令和3年12月

1 令和3年度学力・学習状況充実プランについて

令和3年度全国学力・学習状況調査が、5月27日（木）小学校6年生、中学校3年生を対象に行われました。全国の結果や本県の経年変化等を分析し、見えてきた本県の課題等を基に、「令和3年度学力・学習状況充実プラン」を作成いたしました。

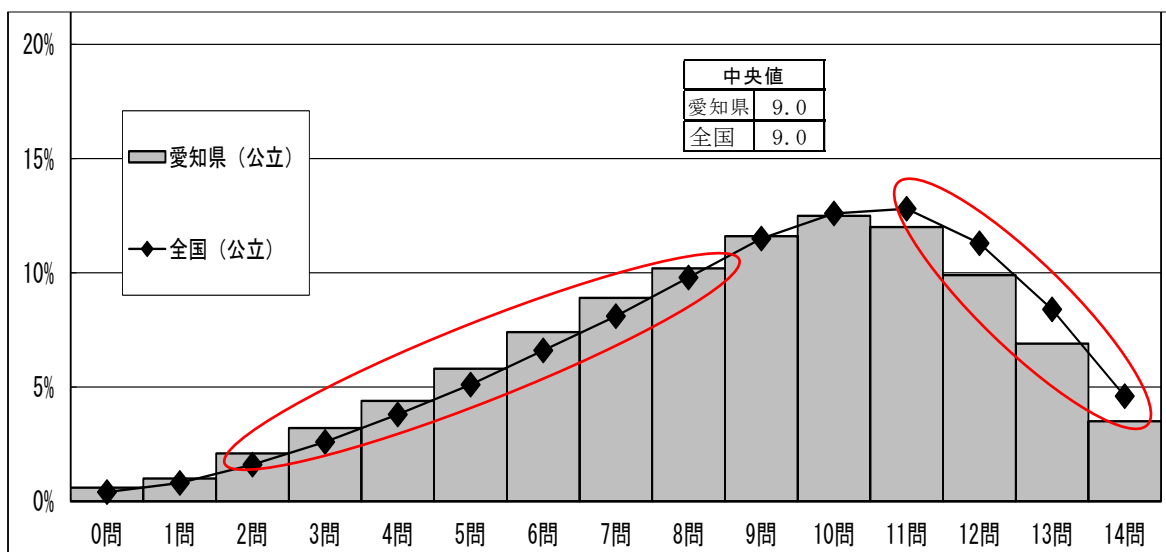
今年度の教科調査は、国語、算数・数学について実施され、小学校は新学習指導要領が全面実施されてから初めての調査でした。経年変化等の分析からは、改善の傾向が見られたものもある一方、依然として課題が認められるものがあります。

そこで、愛知県の児童生徒の現状から見えてきた課題に対する対策を示し、重点的に取り組みたい授業例を、「授業アイデア例（国立教育政策研究所教育課程教育センター）」を参考にしてまとめました。また、小・中学校の先生方が、それぞれ異校種の課題及び対策についても理解した上で、学習指導等に生かすことができるよう、本年度から「学力・学習状況充実プラン」の小学校版と中学校版を統合しました。

本県、児童生徒の学力・学習状況のさらなる向上・改善のため、本プランを積極的に活用してください。

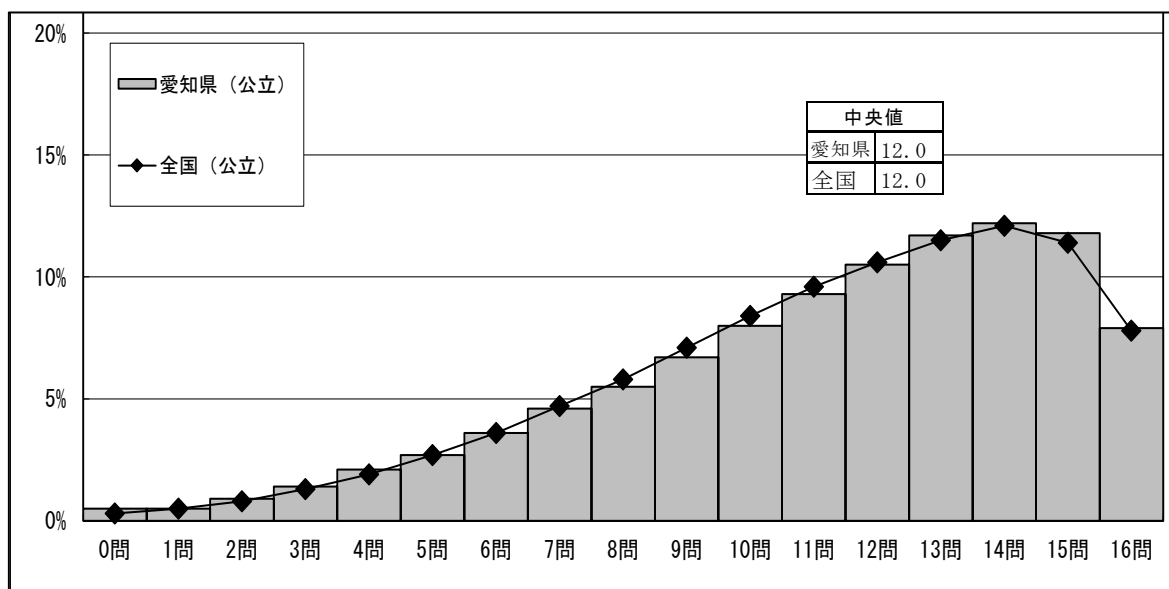
2 授業改善に向けて (1) 小学校の正答数分布の傾向

小学校国語 平均正答率62% (全国平均正答率64.7%)



- 全国と比較して、上位層が少なく、中位層以下が多い傾向でした。

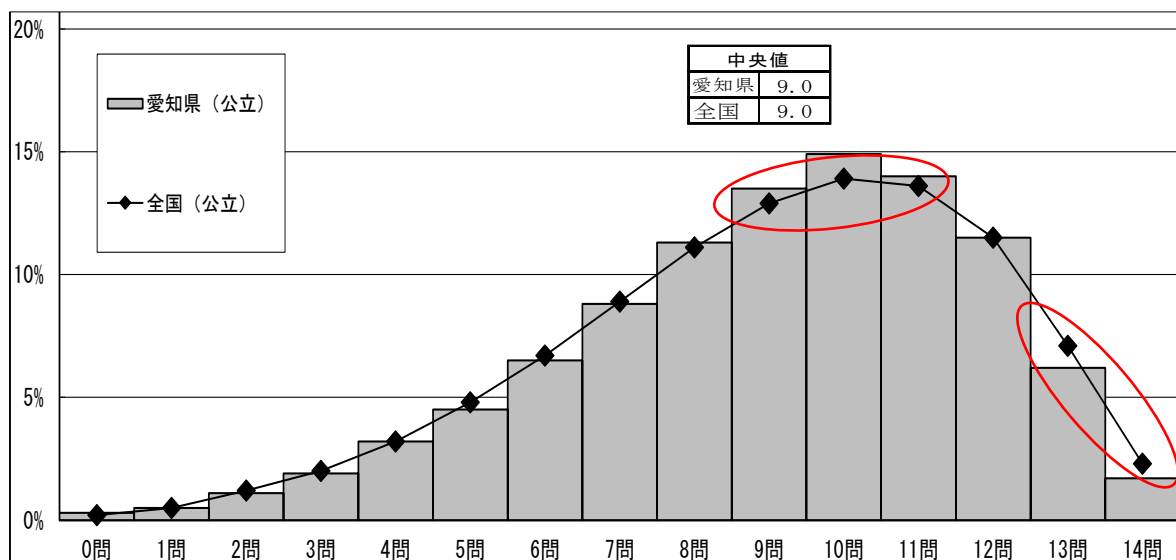
小学校算数 平均正答率70% (全国平均正答率70.2%)



- 全国と比較して、ほぼ同等の傾向でした。

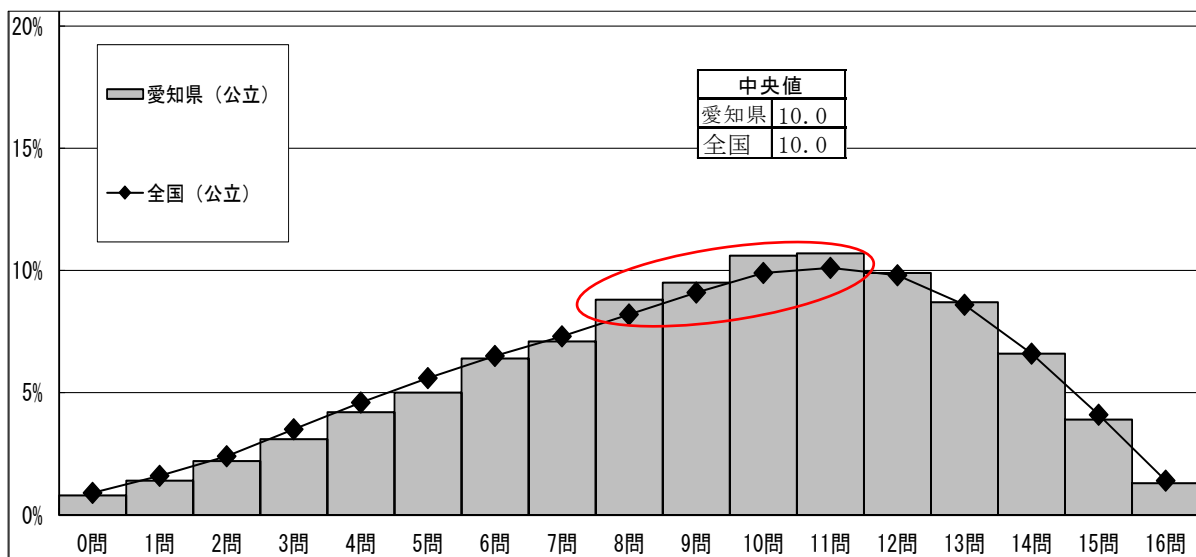
(2) 中学校の正答数分布の傾向

中学校国語 平均正答率64% (全国平均正答率64.6%)



- 全国と比較して、上位層は少なく、中位層が多い傾向でした。

中学校数学 平均正答率58% (全国平均正答率57.2%)



- 全国と比較して、中位層が多い傾向でした。

(3) 質問紙調査の傾向

① 主体的・対話的で深い学びの状況と学力の関係

児童生徒質問A 「前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

小学校						中学校					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和3年度	29.6	47.6	77.2	+0.7	-1.0	令和3年度	30.9	47.7	78.6	+5.8	-2.4
平成31年度	31.8	44.7	76.5	+1.1	-1.2	平成31年度	29.0	43.8	72.8	+1.8	-2.0
平成30年度	27.3	48.1	75.4		-1.3	平成30年度	24.6	46.4	71.0		-2.8

「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」に回答した児童生徒の割合は全国値よりも低い傾向ではありますが、年を追うごとに上昇しています。特に、中学校での伸びが目立っています。

児童正答質問B 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」

小学校						中学校					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和3年度	32.5	45.5	78.0	+4.7	-0.8	令和3年度	31.7	44.1	75.8	+5.5	-2.0
平成31年度	30.3	43.0	73.3	-4.3	-0.8	平成31年度	26.5	43.8	70.3	-3.9	-2.5
平成30年度	34.8	42.8	77.6		-0.1	平成30年度	29.8	44.4	74.2		-2.1

「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」に回答した児童生徒の割合は、全国値よりも低い傾向ではありますが、過去3回の中では一番高くなっています。

児童生徒質問C 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」

小学校						中学校					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	全国	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	左記合計	全国	全国との差
令和3年度	31.9	45.6	77.5	78.3	-0.8	令和3年度	24.7	47.8	72.5	74.6	-2.1

- ・ 「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」に回答した児童生徒の割合は、全国値よりも低くなっています。
- ・ 下表のように、肯定的に回答した児童生徒の平均正答率は、否定的に回答した児童生徒より、小・中学校ともに大きく上回っています。

<参考>児童生徒質問Cの回答と各教科の平均正答率

選択肢	小学校				中学校			
	児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)			
		国語	算数		国語	数学		
1 当てはまる	31.9	68.0	76.1	24.7	70.4	67.7		
2 どちらかといえば、当てはまる	45.6	61.5	69.9	47.8	65.3	59.0		
3 どちらかといえば、当てはまらない	18.3	55.4	63.1	22.2	58.7	48.7		
4 当てはまらない	4.2	51.1	57.8	5.0	52.7	41.1		

学校質問A 「前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

小学校					中学校				
選択肢	よく行った	どちらかといえば行った	左記合計	前回との差	選択肢	よく行った	どちらかといえば行った	左記合計	前回との差
令和3年度	25.3	56.1	81.4	+2.8	令和3年度	19.1	59.3	78.4	+9.8
平成29年度	18.5	60.1	78.6	+4.3	平成29年度	14.8	53.8	68.6	+2.0
平成28年度	17.0	57.3	74.3		平成28年度	13.8	52.8	66.6	

- ・ 「よく行った」もしくは「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合は、小・中学校とも年を追うごとに上昇しています。特に、中学校では、前回と比べると9.8ポイント上昇しています。
- ・ 下表のように、質問に対する回答と各教科の平均正答率は、小・中学校とも肯定的に回答した学校で高くなっています。

<参考>学校質問Aの回答と各教科の平均正答率

選択肢		小学校			中学校		
		学校数の割合(%)	平均正答率(%)		学校数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	よく行った	25.3	62.5	70.7	19.1	65.0	58.5
2	どちらかといえば、行った	56.1	61.0	69.2	59.3	64.1	57.1
3	あまり行わなかった	18.5	60.2	68.7	21.5	62.6	55.2
4	全く行わなかった	0.0			0.0		

学校質問B 「前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」

小学校						中学校					
選択肢	よく行った	どちらかといえば行った	左記合計	全国	全国との差	選択肢	よく行った	どちらかといえば行った	左記合計	全国	全国との差
令和3年度	11.8	62.5	74.3	81.4	-7.1	令和3年度	8.4	55.0	63.4	72.6	-9.2
平成31年度	11.2	65.5	76.7	84.7	-8.0	平成31年度	7.5	55.6	63.1	77.9	-14.8

- ・ 「よく行った」もしくは「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合は全国値より低く、小・中学校とも大きな差がありました。
- ・ 下表のように、質問に対する回答と各教科の平均正答率は、小・中学校とも肯定的に回答した学校で高くなっています。

<参考>学校質問Bの回答と各教科の平均正答率

選択肢		小学校			中学校		
		学校数の割合(%)	平均正答率(%)		学校数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	よく行った	11.8	63.0	71.1	8.4	65.2	58.7
2	どちらかといえば、行った	62.5	61.2	69.5	55.0	64.3	57.4
3	あまり行わなかった	25.2	60.7	68.8	35.9	63.1	55.8
4	全く行わなかった	0.4	55.8	66.3	0.7	64.9	60.6

② 1人1台端末の活用状況と学力の関係

児童生徒質問D 「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」

小学校						中学校					
選択肢	ほぼ毎日	週1回以上	左記合計	全国	全国との差	選択肢	ほぼ毎日	週1回以上	左記合計	全国	全国との差
令和3年度	8.7	26.8	35.5	39.0	-3.5	令和3年度	9.6	24.4	34.0	34.8	-0.8

- 「ほぼ毎日」もしくは「週1回以上」と回答した児童生徒の割合は、全国値よりも低くなっています。
- 下表のように、質問に対する回答と各教科の平均正答率は、「ほぼ毎日」もしくは「週1回以上」と回答した児童生徒の方が高い傾向にあります。

<参考>児童生徒質問Dの回答と各教科の平均正答率

選択肢		小学校			中学校		
		学校数の割合(%)	平均正答率(%)		学校数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	ほぼ毎日	8.7	63.0	70.4	9.6	66.5	60.2
2	週1回以上	26.8	63.2	70.8	24.4	64.7	58.2
3	月1回以上	28.9	62.6	70.8	26.0	63.8	57.2
4	月1回未満	35.4	60.5	69.1	39.8	64.3	57.7

児童生徒質問E 「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」

小学校						中学校					
選択肢	役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	左記合計	全国	全国との差	選択肢	役に立つと思う	どちらかといえば、役に立つと思う	左記合計	全国	全国との差
令和3年度	63.5	30.6	94.1	94.5	-0.4	令和3年度	55.5	37.1	92.6	93.2	-0.6

- 「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と、肯定的に捉えている児童生徒の割合は非常に高くなっています。

学校質問C 「前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板など)などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行いましたか」

小学校						中学校					
選択肢	ほぼ毎日	週1回以上	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	ほぼ毎日	週1回以上	左記合計	前回との差	全国との差
令和3年度	40.5	36.8	77.3	4.1	-9.3	令和3年度	44.3	32.3	76.6	10.3	-11.2
平成31年度	27.8	45.4	73.2	6.6	-7.6	平成31年度	32.9	33.4	66.3	2.6	-14.5
平成30年度	22.9	43.7	66.6		-6.4	平成30年度	26.9	36.8	63.7		-11.1

- 「ほぼ毎日」もしくは「週1回以上」と回答した学校の割合は、小・中学校とも年を追うごとに上昇しています。特に、中学校では、前回と比べると10.3ポイント上昇しています。
- しかし、全国値と比較すると、かなり低い傾向となっています。

(4) 授業改善の方向性

1 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図り、 活用・探究へつなげよう

日常生活における様々な場面で、主体的に活用できる、生きて働く「知識及び技能」として習得することが重要です。児童生徒が「何が理解できたのか」「何ができるようになったのか」ということが実感できるよう、以下の点に留意して指導しましょう。

- 実生活に関連させたり遊びの要素を取り入れたりするなど、興味関心を引き出しながら知識や技能を身に付けるための学習活動となるように工夫する。
- 基礎・基本の定着を図るために、「めあて」を明確にして学習の見通しをもたせ、「振り返り」をしっかりと行う。
- 習得した知識や技能を活用して、物事の中から問題を見いだして解決につなげていく探究活動や自分の考えを伝え合う学習活動を行う中で、思考力、判断力、表現力等を育む。
- 児童生徒の学習改善につながる学習評価を行い、新たな意欲の喚起につなげる。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善に取り組もう

以下のような観点をもって、授業改善に取り組みましょう。

- 児童生徒の興味関心を引き出し、意欲的に学習に取り組める授業展開をどう工夫するか。
- 児童生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返って次の学習につなげたりするなど、自らの学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか。
- 児童生徒が友達、教職員、地域の方々、先哲との対話によって、自分の考えなどを深める場面をどこに設定するか。
- 学びの深まりをつくりだすために、知識や情報から考えを形成したり、問題解決に向けた探究活動をしたりするなど、児童生徒が考える場面をどのように組み立てるか。
- 目的に応じて必要な条件を見つけたり、複数の情報を整理したりする場面を取り入れた課題をどのように設定するか。

3 1人1台端末を積極的かつ効果的に活用し、 学習活動の充実を図ろう

1人1台端末を積極的かつ効果的に活用し、児童生徒の興味・関心を高め、考えを広げたり、理解を深めたりしましょう。また、1人1台端末を活用した学習活動を通じ、児童生徒の情報活用能力や論理的思考力の伸長を図りましょう。

- 授業における有効な活用の仕方を研究する。
- 家庭における活用の仕方を工夫する。
- 学ぶ機会の確保の視点をもって、活用の仕方を工夫する。

3 各教科の課題解決に向けて

各教科の「各問題の内容・結果」の分析から、「改善の方向性」とそれに対応する「授業アドバイスシート」を示します。この「授業アドバイスシート」等を活用して、授業改善を図りましょう。

(1) 小学校国語

① 各問題の内容・結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容					正答率 (%)		差 (ポイント)	無解答率 (%)			対応する教科書の学年とページ	
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			愛知県(公立)	全国(公立)		愛知県(公立)	全国(公立)	愛知県(差)		
			言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと			読むこと					
1ー	津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で上野さんが話した構成の説明として適切なものを選択する	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える				5・6イ			75.3	77.5	-2.2	0.4	0.3	0.1	光村 ⑤P.211 東書 ⑤P.226
1二	津田梅子についての【スピーチ】の練習で、〈資料②〉と〈資料③〉を使った理由の説明として適切なものを選択する	資料を用いた目的を理解する				5・6ウ			73.3	74.9	-1.6	0.6	0.4	0.2	光村 ⑤P.211 ⑥P.212 東書 ⑥P.138、238
1三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の部分で、話す内容として適切なものを選択する	目的や意図に応じ、資料を使って話す				5・6ウ			79.2	81.0	-1.8	0.6	0.4	0.2	光村 ⑤P.211 ⑥P.212 東書 ⑥P.138、238
2ー	面ファスナーに関する【資料】の文章が、何について、どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する				5・6ア			76.6	77.6	-1.0	0.5	0.4	0.1	光村 ⑤P.45 ⑥P.45 東書 ⑤P.32
2二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する	思考に関わる語句の使い方や文章の中で使う	5・6オ						86.8	87.5	-0.7	0.5	0.3	0.2	光村 ⑤P.199、202 ⑥P.100 東書 ⑤P.210 ⑥P.70
2三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける				5・6ウ			32.1	34.4	-2.3	5.0	4.1	0.9	光村 ⑤P.98、137 ⑥P.96、141 東書 ⑤P.78、142 ⑥P.34、74、138
2四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する				3・4ウ			27.9	29.7	-1.8	6.8	5.5	1.3	光村 ③上P.86 ④下P.43 東書 ③下P.8 ④下P.8
3ー	丸山さんの【文章の下書き】の構成についての説明として適切なものを選択する	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える				5・6イ			61.5	64.8	-3.3	2.8	2.1	0.7	光村 ⑥P.70、141 東書 ⑤P.186 ⑥P.226
3二	丸山さんの【文章の下書き】の一部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す	目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する				5・6ウ			49.9	56.6	-6.7	12.1	9.6	2.5	光村 ⑤P.174、206 ⑥P.176 東書 ⑤P.12 ⑥P.12、158
3三(1)ア	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部アを、漢字を使って書き直す(ころがっている)		5・6エ						73.3	78.3	-5.0	12.8	8.8	4.0	/
3三(1)ウ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部ウを、漢字を使って書き直す(つみ重ね)	学年別漢字配当表に示されている漢字を分の中で正しく使う	5・6エ						53.3	54.4	-1.1	17.8	14.4	3.4	
3三(1)エ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部エを、漢字を使って書き直す(げんいん)		5・6エ						77.5	79.0	-1.5	8.8	6.6	2.2	
3三(2)イ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部イで、「残されています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語の関係を捉える				3・4カ			60.6	67.0	-6.4	5.3	3.8	1.5	光村 ③上P.88 下P.29 ④上P.81 下P.101 東書 ③上P.144 ④上P.138
3三(2)オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の一部オで、「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える				3・4カ			40.5	43.6	-3.1	5.7	4.1	1.6	光村 ③下P.29 東書 ③上P.144 ④上P.138

② 小学校国語の改善の方向性

1 主語と述語の関係などに注意して、書いた文を推敲する学習に取り組もう

設問3三(2)イ「文の中における主語と述語の関係を捉える」の平均正答率は60.6%で、全国と比較して-6.4ポイントの差があった。



- ① 主語と述語との関係を理解できるように、指導しよう。
- ② 主語が何かを意識して文章を書く学習を設定しよう。

授業アドバイスシート

小学校国語① 参照
＜取組例＞P16～17
・「春休みの出来事について書いた文章を読み直そう」

2 目的や意図に応じて、自分の考えを支える理由や事例を明確にして詳しく書く学習に取り組もう

設問3二「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが
ら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」
の平均正答率は49.9%で、全国と比較して-6.7ポ
イントの差があった。



- ① 理由や筋道を立てて自分の考えを述べる活動を設定しよう。
- ② 異なる立場の考えを取り上げる活動を設定しよう。

授業アドバイスシート

小学校国語② 参照
＜取組例＞P18～19
・「自分の考えを主張する文章を書こう」

3 日常的に文や文章の中で適切に使えるように、漢字学習の取り組みを工夫しよう

設問3三(1)アの「ころがっている→転がっている」の正答率は全国と比べ-5.0ポイント、イ「積み重ね→積み重ね」は-1.1ポイント、ウ「げんいん→原因」は-1.5ポイントの差がありました。



児童自身が書いた文章を見直す中で、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるように指導しよう。

授業アドバイスシート

小学校国語③ 参照
＜取組例＞P20～24
・「委員会からのお知らせ文」を見直そう等

(2) 小学校算数

① 各問題の内容・結果と対応する学年等

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					正答率(%)		差 (ポイント)	無解答率(%)			対応する教科書の 学年とページ (審判館)	
			A 数と 計算	B 図 形	C 測 定	C 変 化と 関 係	D デ ータの 活 用	愛 知 県 (公 立)	全 国 (公 立)		愛 知 県 (公 立)	愛 知 県 (公 立)	全 国 (公 立)		愛 知 県 (公 立)
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1 (2) ア(イ) 3 (2) ア(イ) ※		2 (1) ア(ア)				63.6	62.5	1.1	2.2	1.7	0.5	① P. 94 ② 上 P. 35 ③ 上 P. 47
1 (2)	500mを歩くのに7分かかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる				5 (1) イ(ア) 5 (2) イ(ア)			85.2	86.7	-1.5	2.4	1.7	0.7	⑤ P. 180
1 (3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ	速さを求める除法の式と商の意味を理解している				5 (2) ア(ア)			55.7	55.8	-0.1	2.0	1.4	0.6	⑤ P. 222
1 (4)	午後1時35分から50分後の時刻を書く	条件に合う時刻を求めることができる			3 (2) ア(イ)				88.8	89.2	-0.4	0.9	0.7	0.2	③ 上 P. 53
1 (5)	分速540mのバスが2700mを進むのにかかる時間を求める式を書く	速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる				5 (2) ア(ア)			86.4	85.1	1.3	1.8	1.5	0.3	⑤ P. 224
2 (1)	直角三角形の面積を求める式と答えを書く	三角形の面積の求め方について理解している			5 (3) ア(ア)				61.3	55.1	6.2	1.9	1.6	0.3	⑤ P. 133
2 (2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる			5 (3) ア(ア)	1 (1) ア(イ)			71.2	72.5	-1.3	1.5	1.0	0.5	① P. 159 ⑤ P. 144
2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる			5 (3) ア(ア) ※				45.1	46.0	-0.9	5.8	4.6	1.2	⑤ P. 139
3 (1)	6年生の本の貸し出し冊数を、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、数量を読み取ることができる				3 (1) ア(イ)			95.4	95.8	-0.4	0.5	0.4	0.1	③ 上 P. 77
3 (2)	学年ごとの本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる				3 (1) ア(イ)			90.4	90.7	-0.3	0.6	0.4	0.2	③ 上 P. 86
3 (3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ	データを二次元の表に分類整理することができる				4 (1) ア(ア)			62.6	67.5	-4.9	2.4	1.7	0.7	④ 下 P. 63
3 (4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる				5 (1) ア(ア) ※			50.9	52.0	-1.1	12.3	10.3	2.0	⑤ P. 204
3 (5)	5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ	集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる				5 (1) ア(イ) ※			73.8	73.9	-0.1	1.8	1.3	0.5	⑤ P. 206
4 (1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く	示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる			3 (4) ア(ア) イ(イ)				81.8	83.0	-1.2	2.1	1.7	0.4	③ 上 P. 111
4 (2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一入分のジュースの量を求める式と答えを書く	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができる			4 (4) ア(エ)				55.8	55.5	0.3	2.4	2.0	0.4	④ 下 P. 42
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる			4 (4) ア(ア) ※				53.5	51.5	2.0	11.5	10.3	1.2	④ 下 P. 50

② 小学校算数の改善の方向性

1 「問題、計画、データ、分析、結論」という5つの段階を経ながら、新たな問題を見いだそう

設問3(4)「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」の平均正答率は50.9%と低かった。



- ① 統計的な問題解決活動を繰り返し行えるような活動を設定しよう。
- ② 導き出された結論から、さらなる問題を見いだせるような活動を設定しよう。

授業アドバイスシート

小学校数学① 参照

＜取組例＞P25～26

- ・「統計的な問題解決の方法で考えよう」

2 どちらが速いか調べる場合には、商の意味を理解して判断しよう

設問1(3)「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」の平均正答率は55.7%と低かった。



- ① 速さを比べる問題を日常生活の場面から見いだせるような活動を設定しよう。
- ② 速さを求める式と答えの意味を考える活動を設定しよう。
- ③ 速さを比べるときに、速さの単位が異なる場合についても考えられるように指導しよう。

授業アドバイスシート

小学校数学② 参照

＜取組例＞P27～28

- ・「どちらが速いか判断しよう」

(3) 中学校国語

① 各問題の内容・結果と対応する学年等

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				正答率(%)		差 (ポイント)	無解答率(%)			対応する 教科書の 学年とページ (光村)
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	愛知県 (公立)	全国 (公立)		愛知県 (公立)	全国 (公立)	愛知 ー 全国 (差)	
1ー	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	話し合いの話題や方向を捉える	1 オ				88.4	89.7	-1.3	0.3	0.2	0.1	①P.145
1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1 エ				91.8	92.5	-0.7	0.3	0.2	0.1	①P.116 ②P.112
1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1 オ				56.2	57.1	-0.9	3.4	3.4	0.0	①P.146
2ー	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く		2 エ			25.1	24.8	0.3	0.3	0.3	0.0	①P.120 ①P.275
2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える		2 オ			73.5	74.5	-1.0	9.5	8.5	1.0	①P.138
3ー	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1 ア		43.2	43.7	-0.5	0.4	0.4	0.0	①P.96
3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、誰の動作なのかを選択する	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1 ウ		58.9	58.7	0.2	0.4	0.4	0.0	①P.22 ①P.242
3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			2 イ		73.1	71.0	2.1	6.2	7.3	-1.1	②P.92
3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1 オ		14.8	20.5	-5.7	25.5	24.1	1.4	②P.196
4ー①	漢字を読む(ゆばして)	文脈に即して漢字を正しく読む			2 (1) ウ (7)		97.4	97.5	-0.1	1.5	1.5	0.0	①P.42
4ー②	漢字を読む(詳細)	文脈に即して漢字を正しく読む			2 (1) ウ (7)		90.2	88.8	1.4	2.3	2.3	0.0	①P.128
4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			1 (1) イ (9)		76.0	74.0	2.0	1.0	1.1	-0.1	①P.300 ②P.296
4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	相手や場に応じて敬語を適切に使う			2 (1) イ (7)		40.6	40.3	0.3	1.8	1.7	0.1	①P.299 ②P.117
4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く		2 ウ			72.9	71.9	1.0	9.5	9.7	-0.2	②P.114

② 中学校国語の改善の方向性

1 具体的な叙述を根拠に、自分の考えをもつ学習に取り組もう

設問3四「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」の平均正答率は14.8%と低く、全国と比較して-5.7ポイントの差があった。



- ① 書かれている考えの根拠となる叙述を検討する活動を設定しよう。
- ② 叙述と結びつけて自分の考えをもつ力を育成しよう。

授業アドバイスシート

中学校国語① 参照

<取組例>P29~30

- ・「叙述を根拠に、自分の考えをもつ」

2 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめよう

設問1三「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」の平均正答率は56.2%で、全国と比較して-0.9ポイントの差があった。



- ① 話し合っている目的や、目指す目標を常に意識するように指導しよう。
- ② 話題を意識しながら、その経過を捉えて話したり聞いたりするように指導しよう。

授業アドバイスシート

中学校国語② 参照

<取組例>P31~32

- ・「動画を用いて話し合いの中の自分の発言を振り返ろう」

(2) 中学校数学

① 各問題の内容・結果と対応する学年等

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)		差 (ポイント)	無解答率(%)			対応する教科書の 学年とページ (啓林館)
			数と式	図形	関数	資料の活用	愛知県 (公立)	全国 (公立)	愛知ー全国 (公立)	愛知県 (公立)	全国 (公立)	愛知ー全国 (差)	
1	$(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	2 ⁽¹⁾ ア				78.2	77.1	1.1	0.8	0.8	0.0	① P. 72
2	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることのできる	1 ⁽³⁾ ウ				76.8	71.3	5.5	5.9	7.6	-1.7	② P. 102
3	中心角60°の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している	1 ⁽²⁾ ウ				68.8	68.1	0.7	0.3	0.3	0.0	① P. 171
4	経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している			1 ⁽¹⁾ ア		47.2	48.0	-0.8	9.2	9.3	-0.1	① P. 114
5	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられたデータから中央値を求めることのできる			1 ⁽¹⁾ ア		89.0	84.5	4.5	0.8	1.0	-0.2	② P. 221
6 (1)	四角で囲んだ4つの数が12, 13, 17, 18のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることのできる	2 ⁽¹⁾ イ,ウ				84.8	83.9	0.9	2.9	3.5	-0.6	② P. 26
6 (2)	四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することのできる	2 ⁽¹⁾ イ,ウ				63.7	61.8	1.9	15.4	15.4	0.0	② P. 26
6 (3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することのできる	2 ⁽¹⁾ イ,ウ				30.6	30.3	0.3	30.4	29.9	0.5	② P. 26
7 (1)	与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることのできる			1 ⁽¹⁾ ウ		94.1	93.5	0.6	1.8	2.0	-0.2	① P. 125
7 (2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することのできる			1 ⁽¹⁾ エ,オ		27.2	27.7	-0.5	25.3	24.7	0.6	① P. 139
8 (1)	気温差が9℃以上12℃未満の階級の度数を書く	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることのできる			1 ⁽¹⁾ ア		82.5	83.0	-0.5	3.9	4.2	-0.3	① P. 218
8 (2)	2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いることの前提となっている考えを選ぶ	相対度数の必要性和意味を理解している			1 ⁽¹⁾ ア		35.7	36.8	-1.1	0.8	1.0	-0.2	① P. 225
8 (3)	「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することのできる			1 ⁽¹⁾ イ		12.0	11.1	0.9	32.0	32.2	-0.2	① P. 227
9 (1)	四角形ABCEが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することのできる	2 ⁽²⁾ イ,ウ				40.5	44.3	-3.8	3.8	3.6	0.2	② P. 145
9 (2)	錯角が等しくなることについて、根拠となる直線FEと直線BCの関係を、記号を用いて表す	錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	2 ⁽¹⁾ ア				63.9	64.3	-0.4	13.2	14.2	-1.0	② P. 99
9 (3)	∠ARGや∠ASGの大きさについていつでもいえることを書く	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することのできる	2 ⁽¹⁾ ア				31.2	28.8	2.4	27.1	28.7	-1.6	② P. 153

② 中学校数学の改善の方向性

1 図形を動的に観察することを通して、見いだした事柄を数学的に表現する学習に取り組もう

設問9(3)「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる」の平均正答率は31.2%と低かった。



- ① 観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見だし、論理的に考察する場面を設定しよう。
- ② ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だして、それを数学的に表現できる場面を設定しよう。

授業アドバイスシート

中学校数学① 参照

<取組例>P33~34

- ・「三角定規を重ねると、どんな四角形ができるか考えよう」

2 2つの数量の関係を比例とみなして数学的に考察しよう

設問7(2)「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」の平均正答率は27.2%と低く、全国と比較して-0.5ポイントの差があった。



- ① 実生活の場面を工夫して、2つの数量の関係を理想化したり単純化したりする活動を設定しよう。
- ② 問題解決のために、数学を活用する方法を考え、説明できるように指導しよう。

授業アドバイスシート

中学校数学② 参照

<取組例>P35~36

- ・「2分を計る砂時計を作るために必要な砂の重さを予想しよう」

3 表やヒストグラムなどを整理して分析し、データの傾向を捉えよう

設問8(2)「相対度数の必要性と意味を理解している」の平均正答率は37.5%と低く、全国と比較して-1.1ポイントの差があった。



- ① 実生活や社会事象の中にあるデータを使って、考察する場面を設定しよう。
- ② 解決のための過程や結果を批判的に考察できるように工夫した資料を作成したり、その根拠を述べさせるような話し合いの場を設定したりしよう。

授業アドバイスシート

中学校数学③ 参照

<取組例>P37~38

- ・「読書時間の傾向を捉えて説明しよう」